

ニホンナシ「南水」の生い立ち

南信農業試験場

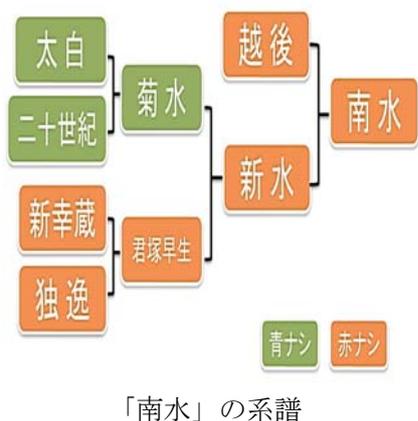
県オリジナル品種ニホンナシ「南水」は、南信農業試験場が「越後」に「新水」を交配して育成した赤ナシです。「越後」は黒斑病や黒星病に耐病性をもつ大玉の赤ナシ、一方「新水」は甘味と酸味のバランスのとれた味の良いやや小玉の赤ナシです。新たなナシが両品種の良い形質を受け継いで、味が良く病気に強い品種として誕生することを期待して交配されました。

交配は昭和48年で、翌49年に種子を播き、45個体の実生苗が得られました。55年に初結実、58年に有望系統として選抜されました。関係者により試食検討された結果、大玉で日持ちが良く、何と言っても甘くておいしいと品質の優秀性が認められ、63年に品種登録申請を行い、平成2年に「南水」として登録されました。

「南水」という名前は、南信農業試験場の頭文字「南」と、片親である「新水」の「水」を取って命名されました。「南」には、伊那谷を表す「南信地域」や地域を象徴する山脈「南アルプス」のイメージも込められています。また、「水」には、先輩品種である「幸水」や「豊水」のように日本を代表する品種に育ってほしいとの願いも込められています。なお、当時「水」と名の付く品種は、国の試験場が育成したもの以外は「南水」だけだったそうです。

登録から30年近く経過した今日、「南水」は県内で200haほどに栽培面積を広げ、「幸水」と並ぶ主要品種となり、全国では6番目の品種に成長しました。この間、栽培上欠点となる黒斑病に弱いなどの特性も見つかりましたが、関係者の努力により克服されてきました。

今年46年目となる「南水」の原木は、庁舎のすぐ前に植えられ今も元気に生育しており、視察で来場された皆様には最初に案内をしています。9月中下旬には成熟期となり、40回目の収穫を迎えます。南信農業試験場へお寄りの際は、是非ご覧ください。



「南水」の原木（撮影：令和元年6月）

担当者	前島 勤	電話番号	0 2 6 5 - 3 5 - 2 2 4 0
-----	------	------	-------------------------